

個別課題:ESAS-r-J評価を用いたPCT介入の効果
(令和元年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
58 国立病院機構 近畿中央呼吸器センター	<p>令和元年7月1日～12月末日の期間において 新規PCT依頼がん患者の初回診療時と1週間後(±3日)に症状評価尺度ESAS-r-J評価のうち解析可能なケースの ①疼痛、②呼吸困難、③全体のスケールの変化で前後で1以上の改善を目指す</p>	<p>①PCTの日々のカンファレンスでESAS評価について協力依頼 ②患者表にESAS評価日を記載し、可視化してタイムリーに評価する ③朝のPCTカンファレンスで評価を行う担当者を確認するように努める ④PCTデータ入力表に症状評価尺度ESAS-r-J評価のうち解析可能なケースの①疼痛、②呼吸困難、③全体のスケールを入力し、評価する。</p>	<p>①②実施。 ③は、朝のPCTカンファレンスへ担当者が参加できないこともあり、ラウンドしながら共有しESAS評価実施 ④がん患者の直接介入依頼:146件 ESAS評価:a)介入時 143件 b)1週間後(±3日) 47件 →a)b)とも実施できた件数:43件の平均より初回診察時と1週間後(±3日)の変化は疼痛:0.4減、呼吸困難:0.7減、全体:0.1減 のため目標達成には至らず。背景として、PS3～4は2割、PCU開設後PCT介入患者の9割強が化学療法目的の入院であり副作用が出現する時期に評価をしていることも全体評価の低下がみられなかった一因と考える。また、a)b)とも実施できた件数が43/146件となった理由は、59件が短期入院、31件が高齢やせん妄による認知機能低下により数値化が困難であった。</p>	<p>・入院期間が短いため評価日の設定を初回診察、3日後、7日後へ変更 ・ESAS評価を実施する医療者のばらつきもあるため統一を図る ・化学療法中の患者依頼がほとんどであるため次回は化学療法後の倦怠感や消化器症状なども併せて質の評価を行う</p>